

チャレンジコミュニティ

Challenge Community Club

通信



第32号

2016.3 vol.32



浜離宮恩賜公園のさくら



明治学院大学愛好会吹奏楽部



活動報告会会場

CONTENTS ■ ぐあいさつ

麻布地区総合支所協働推進課長 山本 隆司

チャレンジコミュニティ大学

総括コーディネーター・明治学院大学教授 河合 克義

■ 2015年度活動報告会 ～めげないシニアの作り方～

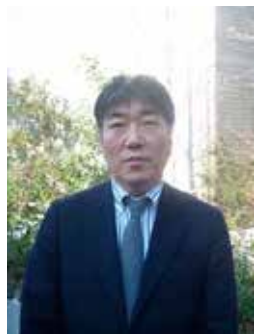
■ 地域CC年間活動報告

■ 運営委員会報告

地域の貴重な人材から魅力的なコミュニティの形成へ！

麻布地区総合支所協働推進課長 山本 隆司

協働推進課では、町会・自治会をはじめ商店街や区民参画組織等、様々な経験や知識を有する方とお話しをする機会があります。ここでは経営者の視点や営業での苦労や努力の話だけでなく、人となりやものの考え方、言葉の使い方、会話の際の表情や物腰に接することができ、自分にとって足りないものやこうあるべきといった点に気付かされます。



豊富な経験や知識、人としての魅力に触れることができる機会でもあるコミュニケーションの楽しさや無限の可能性は、多くの方が実感していることと思います。以前、麻布地区で実施したアンケート調査では、地域コミュニティにおいて、住民同士のつながりを持ちたいという方が64%という結果でした。人と人のつながりを基盤とする地域コミュニティ活動の活性化と継続化は各地区総合支所共通の最重要テーマとなっています。

さて、麻布地区では、20歳から40歳の比較的若い世代を中心に「ミナヨク」というプログラムを試行実施しています。麻布地区内の在住、在学、在勤者には、豊富なアイデアや知識を持ち人間的にも魅力的な方が多くいらっしゃいます。「ミナヨク」では、そういった意欲ある人材が集い、魅力的なまちづくりのアイデアを活発に語り合い、繋ぎ合わせ、アクションを起こすといったことを目指しています。

チャレンジコミュニティ・クラブは、人と人のつながりを基盤とし、地域活動の機会を数多く創出しているパイオニアです。その活発な活動が継続しているのは、豊富な経験、知識、魅力は言うに及ばず、リーダーシップや他者を尊重しお互いを高め合う力など、会員の皆さま個々のトータルな人間力が一番の要因であると思います。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さまには、活動を広く浸透させ、長きにわたりいきいきと取り組んでいる秘訣を教えていただければ幸いです。今後、麻布地区でも大いに参考にさせていただきますので、ご指導のほどよろしく願いいたします。

チャレンジコミュニティ・クラブ 10周年に向けて

チャレンジコミュニティ大学総括コーディネーター・明治学院大学教授 河合 克義

チャレンジコミュニティ大学は2016年4月に10期生を迎えて、これまでの学生総数が600人となります。そして、大学の卒業生で組織されたチャレンジコミュニティ・クラブは、活動を開始して9年目となり、来年は10年の節目を迎えます。600人という会員数になることは、単に組織が大きくなるということだけではなく、質の変化をもたらすものとなっています。



チャレンジコミュニティ大学の毎年の新入生の中で、入学前から知っている人は1割程度です。大学に入ること、新しい友だちの輪が、区内で、近隣地域で、出来るのです。600人の友人の輪は、地域関係の大変革です。都市部での地域ネットワークの希薄さが指摘されていますが、このチャレンジコミュニティ・クラブのネットワークは、驚嘆に値するものと言えます。買い物や散歩等で外出すると、チャレンジコミュニティ・クラブのメンバーに出会う頻度が非常に高くなりました。まさに600人の力です。

さて、チャレンジコミュニティの大学とクラブにおいて、私が強調してきたことは、地域で声をあげない・孤立している人々の生活を見つめ、寄り添う姿勢を持つてほしいということです。港区は、確かに高額所得者が多く住む地域ですが、他方、ひとり暮らし高齢者を中心に経済的にも不安定な生活をしている層が少なくありません。港区政策創造研究所のひとり暮らし高齢者調査(2011年)によれば、年間収入200万円未満層が56%となっています。

声なき声を聞き、孤立している人に接近できるようになるには、チャレンジコミュニティ・クラブのメンバーそれぞれが地域を見る目を養わなければなりません。そのためには、自分の生涯のなかで築かれた考え方を客観視することも必要となるかもしれません。少なくとも、自分の考えが障壁となって地域で声をあげない人々を見過ごすことにならないように。

CCクラブ2015年度活動報告会

～めげないシニアの作り方～

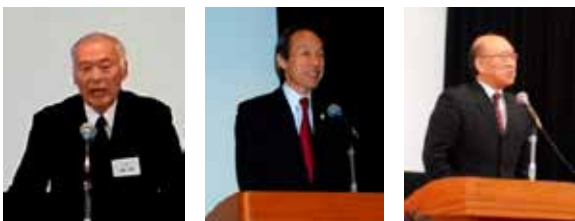
「CCクラブ 2015 年度活動報告会～めげないシニアの作り方～」が2月27日(土)にCC大学9期生を含む約210名が参加し明治学院大学(3201 教室)で開催されました。CCクラブ・斎藤正精世話人代表、港区・武井雅昭区長、明治学院大学・鶴殿博喜学長の挨拶で始まり、来賓の方々が紹介された後、CCクラブの報告に続き、「協働」をテーマに3つの事例報告がありました。休憩後は明治学院大学愛好会吹奏楽部の演奏、明治学院大学・河合克義教授の講演と斎藤世話人代表の挨拶で報告会は終了しました。夕方にはCCクラブ交流会がパレトゾーンで開催され、約140名が参加し、地域と期を超える交流が行われました。

活動報告会

CCクラブ斎藤世話人代表が挨拶に立ち、この4月にCCクラブが500名を超える組織になり、行政のプロジェクトに参画することが必要と感じ、今回の報告会のテーマを「行政との協働」にしたこと、そして港区と明治学院大学の支援に対し謝意を述べました。

引き続き港区武井区長が登壇し、10年前に区の厳しい状況下で、各地域に地区総合支所を開設し、地域に密着した行政に転換して順調に進展していて、また、そのなかで発足したCC大学そしてCCクラブの活動を評価し、今後の活動に期待している、と挨拶がありました。

明治学院大学鶴殿学長は、3月に学長を退任することを披露し、現役終了後の活動について話をされました。ドイツでの特別研修中にシニアコースに通っている方が「人のなかに入り、人と話をすることが大切」と話されたこと、また、明治学院大学名誉教授が全国の教職従事卒業生に対し「求めよ、さらば与えられん」と語ったことは、大変参考になると、話されました。



左から斎藤代表、武井区長、鶴殿学長

CCクラブ活動報告

2015年度CCクラブ活動報告

副代表(企画部会長)丸山 保夫(7期)

丸山企画部会長から、今年度のCCクラブの活動に

ついて報告がありました。

運営委員会(運営委員28名)は年11回、各部会は必要に応じ開催され、それぞれの課題を推進しました。プロジェクトメンバーで今後の活動と体制の検討も行いました。地域連携部会では、メンバーに対するアンケートを実施し、地域活動紹介誌「このゆび、と～まれ!」の発行も行います。報告会、見学会、研修会、イベント等の開催(企画部会)については、7/22 ホームカミングデー、8月下旬 宮古島研修旅行、10/13 東京港視察船搭乗とみなと館見学、10/20 NHK番組見学、2/27 2015年度活動報告会と交流会を行いました。



報告会会場

地域活動の状況

地域連携部会長 野村 知義(8期)

野村地域連携部会長からは地域連携部会の活動報告がありました。1. 地区CC会議の開催(2回) 2. 地域活動の状況報告 3. 活動情報の発信(クローズアップCC) 4. 「このゆび、と～まれ!」の発行 5. 活動実態調査(概要とデータ) 6. CCクラブ創設10周年記念行事に向けて来年度は年間を通して記念行事を開催する予定。

事例報告

豊岡いきいきプラザでのシニア英会話教室講師

報告者 港区豊岡いきいきプラザ 今中 亜希子

CCクラブ 田部 揆一郎(2期)

小野田 マサ子(5期)

まず、豊岡いきいきプラザの事業内容について、今中さんから紹介がありました。所在地は三田5丁目で、

健康で豊かな生活を目指し、大学との地域交流事業、元気に1日を過ごすストレッチやヨガなどのいきプラ体操、大使館との交流事業、企業との地域連携事業、職員による歌声サロン、講座事業の他、児童館での世代間交流、など幅広い事業が行われています。



発表する田部さんと小野田さん、今中さん

本日発表の講座事業は、利用者から英会話の講座はないとの要望に応えるため、CCクラブのイベントに参加され、シニアのための英語講座講師が募集されました。この様な要望に、海外関係の仕事経験のある田部揆一郎さんと50年前の東京五輪の時に通訳として活躍され、メキシコでの生活経験をお持ちの小野田マサ子さんのお二人が、応じられ、2015年の10月6日から12月27日に受講者の申込がスタートし、CCクラブとの共催事業として、教室が開講されました。

「カナダにホームステイして現地の人とコミュニケーションしたい」などの動機で学ぶ受講生に講師として英会話指導されておられる様子がお二人から報告されました。

英会話講師の育成のためのプロジェクトも始動されました。豊岡を発信基地に「飛ばせ！英会話ロケット」と、4年後の東京オリンピックに向けて、受講生が色々な場でのシニアボランティアとして活躍出来るよう、熱心な指導をされている内容の活動報告でした。

「ラクっちゃ」における介護予防リーダーの活動

報告者 港区介護予防総合センター 佐藤 むつみ
CCクラブ 新井 隆治 (3期)

港区介護予防総合センターの佐藤むつみさんから、介護予防センター、ラクっちゃが紹介されました。

区民が健康でいつまでも自分らしくいきいきと暮らせることをめざして開設され、23区で初めての介護予防を専門に行う施設です。施設内には、トレーニングルーム、マシントレーニングルーム、栄養口腔機能改善、研修室、自主活動室があります。

「ラクっちゃ」とは、楽しくチャレンジし、将来に亘り健康な生活が送れるよう準備をする場所になってほしいという気持ちを込めて付けられた愛称です。

介護予防総合センターは、2014年11月22日にオープンした新しいセンターで、役割の5本柱は、①地域

の介護予防活動のサポート ②介護予防に関する研修の設備 ③介護予防プログラムの開発・提供 ④介護予防に関する情報の提供 ⑤個別の継続的な健康サポート、です。



発表する佐藤さんと新井さん

役割を実行し、区民が住み慣れた地域で健康でいきいきと暮

らせる社会の実現として、①地域ネットワークの構築 ②介護予防事業の質の向上 ③高齢者の健康の維持、向上 ④自分らしくいきいきした生活の実現 ⑤介護予防の更なる普及啓発、の5つの効果が期待されています。

介護予防総合センターと関係施設などとの連携・協働によって、①地域のニーズや課題を見つけ、自主グループ活動などを通し、介護予防活動を主体的に行うことができる介護予防リーダー（現在87名）と②港区や港区の関係機関が実施する介護予防の行事を手伝うボランティアが出来る介護予防サポーター（現在80名）が養成され、活躍中で、CCの修了生が約半数を占めています。

新井さんからは、ノルディックウォーキングや介護予防フェスティバルの活動が紹介されました。

港区芝浦港南総合支所との協働事業

報告者 港区芝浦港南地区総合支所 羽田 悠一郎
CCクラブ 青木 稔 (2期)

冒頭青木さんより協働事業内容が報告されました。地域CCクラブ明虹会メンバーの参画で、ベイアップウォーキングの開催、みなとパーク芝浦の防災設備の見学研修、水辺のまち魅力アップ分科会、みどりのまちづくり分科会、べいあっぷ編集室と知生（ちい）き人養成プロジェクトでは、芝浦アイランドカニ講座での岩団子によるヘドロ削減の視察や東京湾での消防艇放水訓練の視察などの活動を行っています。



発表する青木さん

続いて、港区芝浦港南地区総合支所羽田さんから区



発表する羽田さん

民参加組織について、話がありました。港区における参画協働の、「協働」とは、相互にパートナーとして、地域の課題の解決を図るという共通目的のもと、協力して公益的な事

業を実施、あるいは、公益的なサービスを提供するための活動を指します。各活動主体と行政がこのように協働することによって、それぞれの地域での解決すべき課題の複雑化や多様化を解決することに繋がります。港区における協働の取組としては、芝、麻布、赤坂、高輪、芝浦港南の各地区の総合支所に区民参画組織の設置と、港区基本計画「地区版計画書」の策定によって、より便利に、より身近に、より信頼される区役所・支所としての機能が発揮されます。最後に、地区毎の既存の区民参画組織（部会や分科会）の紹介と各総合支所への参加組織の申込方法が説明されました。

あなたの知らない吹奏楽

明治学院大学 愛好会 吹奏楽部

休憩後、明治学院大学愛好会吹奏楽部の木管楽器グループ7人が登壇し、クラリネット7重奏演奏と木管楽器の解説がありました。演奏曲目はクラリネット7重奏 Alan Menken『美女と野獣』などでした。

引続き、金管楽器のグループ4人が登場し、金管4重奏 久石譲作曲、高橋安樹編曲『魔女の宅急便メドレー』などを演奏し、巧みなトークで会場を湧き立たせました。



会場の雰囲気や和らげてくれました

活動の現状と今後の課題

チャレンジコミュニティ・クラブの意義と
今後の活動への期待
チャレンジコミュニティ大学総括コーディネーター
明治学院大学 河合 克義 教授

CC大学創設にあたり、地域にとって何が必要で、どのような人が求められているかを考え、教養や知識をもって判断することが必要ではないかと考えました。創設の基本的な考え方は 1. 地域活動のリーダーとして基礎的学習が出来る人（地域活性化）2. 高齢生活に必要な知識の習



講演する
河合教授

得（生涯学習）3. 区のしくみや地域の懸案課題の共有化を図る（住民参加）ことであり、それを一緒に考える存在が必要でありました。また、若い世代と経験豊かな人が交流出来れば良いと思いました。活動の基本は地域で顔見知りを増やすこと、地域で気になることへの気づきと一歩踏み出す行動だと思います。CCクラブの10周年に向けて期待することは、地域への取り組み活動として、地域活動のネットワーク作りであり、仲よしグループから踏み込み、港区の課題を解決する活動をして欲しいです。また、世代を縦に繋ぐ活動として、CCクラブ会員、学生、子育て中の若い区民そして地域の高齢者の繋がりとしたいと思います。

CCクラブの今後の課題

CCクラブ世話人代表 斎藤 正精

CCクラブも10周年に近づきメンテナンスが必要と感じ、昨年6月に「CCクラブを考える会」を発足させました。人数の増加により、事務量が増大し、運営に全員が参加出来ていないことを感じました。情報と同じ品質で早く伝えることを目的に一斉メールを導入しました。今後の活動として、“内向き”の親睦も大切であるが、“外向き”のイベントを増やしていきます。組織的には「人と人」、「人とグループ」、「グループとグループ」を繋げることを大切に、地区CCクラブを助けて、地区CCクラブが主体的に活動できる組織にしたいと思っています。

交流会

交流会は17時30分より企画部会岩村道子(1期)さんの司会で開かれました。野澤靖弘高輪地区総合支所協働推進課長の乾杯で始まり、9期生がグループごとに自己紹介をしました。7期1グループが日頃の活動の手話をしながらの歌を披露し、続いて、久津弘子(2期)さんのリードによりみんなで合唱をするなど和やかな雰囲気でした。最後は、野村地域連携部会長の挨拶で終了しました。CCクラブ会員、港区、明治学院大学関係者に明治学院大学愛好会吹奏楽部の皆さんも参加し、楽しい時間でした。



9期生の紹介

2015年度地域CC年間活動報告

芝CCクラブ

芝CCクラブの報告は来年度の活動を皆様にご覧いただき、意味も考え、現在決まっている2016年度計画を報告します。

1. 芝CCクラブ定例会—毎月第4月曜日13時半から
2. アドプト活動—5月春～秋の花壇の花植え替え、
11月秋～春の花壇の花植え替え（本芝公園・三田いきいきプラザ・てまり坂）
3. 港地域パーキンソン病友の会支援—毎月第3日曜
難病センター（広尾）支援一年2回
4. 芝ふれあいまつり（芝公園）—6月4日出展
5. 三田いきいきプラザまつり—7月出展
6. 港区介護予防フェスタ（ラクっちゃ）11月出展
7. プラザ神明フェスティバル12月出展
8. 芝・みたまち倶楽部活動—4月のほかは随時
（町歩き・折り紙・切り絵—三田いきいきと協働）
9. 芝地区介護予防フェスタ出展
10. アロマハンドマッサージ活動を今年度より計画



てまり坂のアドプト活動
（3期 新井 隆治）

明虹会（港南・芝浦・台場地域CCクラブ）

地域活動

区ベイエリア・パワーアッププロジェクトに6名がコアメンバーとして協働・参画しプロジェクトの計画から実施まで中心メンバーとして年間を通して活動中

です。

・「水辺のまち魅力アップ分科会」

8月真夏の夕方からベイアップ・ウォーキング（みなとパーク芝浦からお台場まで）に86名（うちクラブ会員が20名）が参加しレインボーブリッジからベイエリアの夜景を堪能、ゴールの台場海浜公園まで汗を流しました。明虹会から5名のスタッフがコース選定、ガイド説明内容とパンフレット作成など企画段階から参画し当日も受付やガイド役を務め、多世代参加型のイベントを大いに盛り上げました。今年3月には運河クルーズのガイド役として参加者へ水辺の魅力を伝える予定です。

・「みどりあるまちづくり分科会」

芝浦中央公園のバラ園で植樹・育成し緑あふれる地域をめざして毎月活動中です。



秋の例会

・知生（ちい）き人養成プロジェクト（12月～1月）
地区総合支所、東京海洋大学や芝浦工業大の連携による江戸前湊塾の研修に4名が参加しました。江戸前の海や船の歴史、現在の東京港や生き物、水辺の環境の学習や東京港クルーズ実習を通じて水辺のまちの魅力の理解を深め、インタープリタとして活動できるよう7回に亘る研修を修了しました。

年間のイベント

春の8期生歓迎会は、みなとパーク芝浦で開催、年間活動計画など打ち合わせ後、新規会員の自己紹介や会員の活動状況報告後、近くの芝浦中央公園へウォーキングを兼ねてバラ園へ出かけました。会員が球根を植えるなど育成に参加しました。11月納会では夜の六義園へ出かけ満月とショーアップされた紅葉を楽しむことが出来ました。
（6期 斎藤 正精）

高輪地区CCクラブ (三田4,5丁目、高輪、白金、白金台)

高輪地区CCクラブの主要活動である「コミュニティ・カフェ高輪」は昨年11月に2周年を迎え活動内容も充実してきました。毎月第2第4金曜日の13時半～16時半の開催ですが、1回当たりの平均利用者数は35名前後で近隣住民の方の参加は増加傾向にあり、40%位となっています。これまでのカフェでは情報交換、お喋りの場となっていました。今年度よりは、カフェの中で「地域の先輩に聞く」をテーマにミニ講演会を開催しており、これまで4人の方にお話を聞きました。CCクラブの最高齢である石松勝さん(7期)、元区議員の樋渡紀和子さん、レイテ海戦の生き残りである発明家、現在は港区で水墨画を教えておられる渡邊義信さん、カフェの常連で車椅子ながら盲導犬協会や発達障害のボランティアをされている阪田久美子さん等素晴らしい先輩達でした。



2周年を迎えたコミュニティ・カフェ高輪

昨年6月には8期生の新入会員18名を迎え総会を行いました。会員総数は133名となりました。8月には「納涼交流会」を行い50名が参加し、昨年引き続き雨宮武さん(3期)のマジック、久津弘子さん(2期)率いる「うたつむぎ」の合唱の他、小倉剛さん(7期)のハワイアンバンド出演により大いに盛り上がりました。春の「高松桜まつり」にはコミュニティ・カフェが出店し、フリーマーケットの活動も行いました。

今年4月には、高松宮邸裏手に高輪1丁目複合施設が完成し、その中の協働スペースでのCCクラブとしての利用を検討しています。これまでカフェ活動をしている区民センター2階のオープンスペースの今後を含め、新しい展開が期待できそうです。

(1期 米永 栄一郎)

3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地域CC)

3Aクラブは平成28年2月17日の定例会で、平成25年11月の発足から10回目を迎えることになりました。平成27年度は8期生も加わり、会員数も現在は79名となりました。これもCCクラブ諸先輩、各総合支所協働推進課の皆さん、そしてCC通信発送時の同封作業等でお手数をおかけしています明治学院大学事務局の皆さんのおかげです。



ミニ講演会・北山 文司さん
(左写真・左から2人目)

8月の定例会にて代表交代が承認されました。現在、各地域より2名の幹事を選出し、年4回の定例会に向けての事前打ち合わせを開き、内容の検討をしています。3Aとしてどのように活動するかを話し合う中で、4年後のオリンピック・パラリンピックに青山通りに聖火リレーを要請する提案があります。外国人旅行者への道案内のための英会話ボランティア活動や地域の人のつながりの場としての「コミュニティカフェ」を3A地域に設立する等を話し合いました。

また、11月には初めての試みとして、赤坂在住の北山文司さんの「戦後70年 語り継ぐ」と題してミニ講演会を開催しました。その際、赤坂、麻布総合支所の協働推進課のご協力をいただきました。

行政と協働して活動することの重要性を強く感じました。赤坂、青山、麻布地区、通称3Aはそれぞれが魅力ある地域です。その地域性とCC会員の経験を活かし、協力し合い、3Aとしての活動ができればと思います。9期生歓迎会のためのミニ歴史散歩を4月20日(水)に計画しています。また、5月の総会に向けて規約なども作成検討中です。他地域の活動を参考にしながら、無理なく集い語れる楽しい3Aクラブにしたいと思います。

(6期 及川 廣子)

■ 運営委員会報告

CCクラブ今後の方向について

CCクラブはこの春9期生を迎え500名を超える組織になります。今後も暫くCC大学が継続されることから、ますますクラブも拡大しその運営も従来の小規模グループのそれとはかなり違って来よう。昨年6月に「CCクラブを考える会」を立ち上げ、今後のクラブ運営と方向性について皆様と様々な観点で検討と議論を重ねこの3月にその提言を提示できるまでになりました。会員アンケート調査では今後のクラブ運営について現在の活動で十分と感じている方は僅か3%で、多くの方が地域活動にもっと力を入れ行政との協働の仕組み構築を期待していることが判りました。

新年度はクラブ10周年記念行事を会員だけでなく一般にオープンで多世代向けの活動を企画・実施していきたいと考えております。CCクラブは大変人材が豊富です。昨年より試験的に開始した会員宛て一斉メールを活用して個々の活動を組織的に横展開することにチャレンジしていけば、一層大きな力を発揮できるに違いありません。会員の同期グループの横のつながりから縦の期の連携ができる情報網が飛躍的に拡大することは多くの皆様が体験済みではないかと思えます。CCクラブ会員同志、特に同期を超えた絆も重視しグループ間の連携に尽力していくつもりです。

(世話人代表 斎藤 正精)

本号掲載の2015年度CCクラブ活動報告会の発表資料がホームページ会員専用サイトに掲載されております。詳細につきましてはホームページをご覧ください。

編集後記

本号で2015年度の会報が最終となります。今年度はCCクラブの企画行事が例年以上に多い年度でした。出来る限り詳細を皆様にお伝えしましたが、「このゆび、と〜まれ!」の刊行が計画にあり、会報は年間総ページを8ページ減少したため、十分に伝えきれたとは言えませんでした。皆様の日常活動を紹介することをテーマに町会活動の特集も行いました。

インターネットの浸透により紙媒体の衰退現象がみられますが、CCクラブにおいては、メンバー構成を考えますとCC通信はまだ重要な情報伝達手段であると思えます。ホームページとの連動を考えながら会報を刊行しましたが、来年度もこの重要性を認識して会報についてご理解をいただければ幸いです。

最後に、皆様のご協力に感謝いたします。誠に有難うございました。

(7期 太田 則義)

表紙写真協力/梅宮 浩司様(3期)
本文写真協力/安藤 洋一様(2期)
米原 剛様(7期)



チャレンジコミュニティ通信 vol.32 2016年3月31日発行
発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ
事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課
〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37
Tel. 03-5421-5247 Fax. 03-5421-5387
Email ccclub@mguad.meijigakuin.ac.jp
http://www.minato-ccc.jp

会報部会
 部会長 太田 則義(7期)
 部員 南 明治(3期)
 部員 関矢加智子(3期)
 部員 三澤 清(6期)
 協力部員 大竹 裕(5期)
 協力部員 及川 廣子(6期)